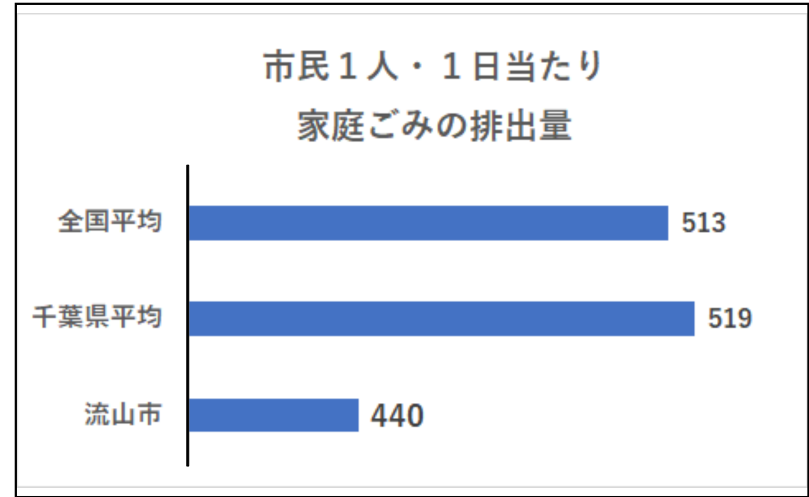


# 指定 ごみ袋

# 強制をやめ、使用は任意で 現行ルールとの併用を

指定ごみ袋導入自治体よりも…



家庭ごみへ指定袋の使用強制すると議会へ発表されて以降、日本共産党市議団は毎議会、取り上げています。

12月議会では、小田桐たかし市議の質問に、「市民一人1日当たりの家庭ごみ排出量」について、流山市の440等は、全国や千葉県平均よりも大幅に低く、市民説明会で紹介された指定ごみ袋先進自治体の神戸市（480等）よりも下回っていることが発覚。担当部長は「人口が増えても、ごみを増やさない努力、非常に意識高く取り組んでいただいている」と答弁しました。一方、使用強制や導入目的、更なる減量化できる根拠を説明することができませんでした。

## 海外からの輸入

しかも、販売製品からベトナム等海外からの輸入品であることも判明。流山市内で、かつ「燃やすごみ」、「プラごみ」を捨てる意外に活用方法がない新商品のために、石油が大量に投入される…指定されたごみ袋として使用しなければ、「違反シール」を大量に張り、不足すれば税金を使って大量に増刷する…これが、環境にやさしいのでしょうか？

市では、「使用強制」のため、おむつ使用世帯への指定袋一部支給や生ごみ減量化機器への補助にむけ事務を進めています。

しかし、現行ルール（透明・半透明の袋でのごみ出し）を継続し、指定袋の使用は市民に任せ、併用する…それだけで、事務や税金は不要、さらに指定袋の案内の印刷等も不要、市職員の事務量も減るのです。

「ごみ袋は併用で」…市長のたった一言で、混乱回避ができるのです。

日本共産党 流山市議会議員

# 小田桐たかし

